

名戸ヶ谷ビオトープだより

第30号

2008年4月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

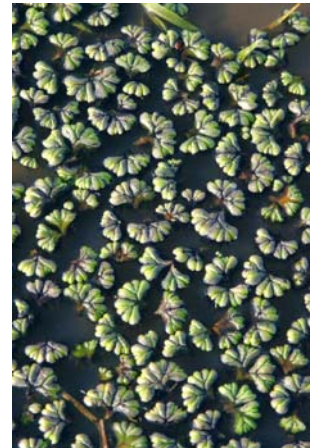
発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

イチョウウキゴケが大発生



ビオトープのゴミ収集を終えて帰ろうとした時、田んぼで作業をしていた K さんから呼び止められました。「この浮草は何ですか」。見ると田んぼの水面を浮草のようなものがびっしりと覆っていました。「シダの一種ではないかと思いますが」と K さんになま返事をしたものの、名前もわからなかったので帰宅後、本を引っ張り出して調べてみました。シダではなくコケの一種のイチョウウキゴケだとわかりました。小さいながらイチョウの葉の形に似ていることからこの名がつけられたようです。更に調べてゆくと、驚いたことに、イ

チョウウキゴケは環境省指定の絶滅危惧種であることがわかりました。昔は水田が多かったようですが、農薬などの影響から次第に姿を消し、今では稀にしか見られない植物になってしまったとのこと。事の重大さが分かり、あわててカメラをつかんで再びビオトープに舞い戻りました。なんとビオトープの田んぼ全域にわたってイチョウウキゴケが繁茂していたのを見て、またまた驚きました。自然農法が定着し、田んぼの水質や泥土が本来の姿になってきたのだと思います。その証としてイチョウウキゴケの大発生が見られたのだと思います。K さんの一言から素晴らしい発見にめぐりあえて、嬉しい一日でした。(佐々木 光正)



畦補修と不耕起水田の畦周り波板設置工事



漏水防止と畦の保全のため波板設置工事を2月5日(火)～10日(日)の期間で延長130mの工事を完了しました。慣れない作業のため波板にメタボ腹のようなたわみが発生し修正に苦労しましたが2日目から順調に進み4日間で延べ20名の協力で予定した箇所は完了しました。16日の合同作業日に畦の補修に着手、今後も引き続き取り組みます。資材購入と指導いただいた小笠原さんに感謝いたします。(窪田 孝志)

畦の整備

一年間の農作業を通して畦を往来すると、痛みが大分激しくなります。春の作業が始まる前に補修、整備をして今年の米づくりに備えなくてはなりません。

以前、田んぼの畦であったところの土を掘り、一輪車で運びます。一輪車の扱いは簡単そうに見えますが、土の重みでバランスを取るのが意外とむずかしい。運ぶ本人の意思とは無関係に、蛇行しながら水を湛えた田に入って行く人も。暖かい春の日の作業で半分終了、あとの残りは木道工事のあとで仕上げましょう。(上村 憲治)



Aゾーンの木道復元

Aゾーン木道工事は3月初めより準備工事を開始しました。市道の擁壁より、ホタルゾーン木道までの約33mの工事を2工区にわけて、22日、23日と29日に本工事を行いました。



市道レベルが水田より約1m高いので、スロープでゆっくり降りていくようになっております。畦上の工事で足元が悪く、大変な工事になりましたが、よい天気恵まれて順調に進みました。

今後の農作業にも役立ちますし、Aゾーンの回遊散歩もでき、訪れる人たちにも喜ばれるでしょう。(小笠原 智)



田起こし完了・カモも代掻き？

もち田の田起こしは、2月11日に完了しました。昨年の雑草「コナギ」などを根から起こして今年の田植えに備えます。今年は雑草の駆除を早めに行い、来年からの不耕起を目指します。畦の補修も行ってありますが、木道工事が完了した後に最終補修を行います。きれいな田んぼには毎夜、カモたちが「代掻き？」にきているようです。また、今年の苗は宮城から入手した種もみ「みやこがね」を神崎で育苗してもらっていますので、田植えも楽しみです。(小笠原 智)

Bゾーンにホタルの水路作り



3月8日(土)に、多くの皆様のご協力により、ビオトープのBゾーン南西部の土手下を整備して、新たにホタルの幼虫を放流することになりました。10m程度マコモを伐採して、水路が確保されましたが、根を切るのが非常に大変で、作業されたみなさまには本当にお疲れさまでした。なお、ホタルの幼虫は、新たな場所と、昨年まで放流していた場所に引き続き放流し、様子を観察したいと思います。幼虫は現在100匹程度が育っていて、4月に放流する予定です。(松清 智洋)

ビオトープ案内掲示板設置

名戸ヶ谷病院前の通りを行く人やバスを利用する市民のみなさん用の案内用掲示板が完成しました。

篠崎会長による手彫りの労作。バードカービングの技が見事に発揮されています。固い材質の木材を彫る苦勞を偲ばせる傑作です。これまでビオトープの場所がどこか分からないと市民の皆様の声が寄せられておりました。(広報担当)



春の植物

春は水田雑草が美しい季節です。

真っ先に咲く花はタネツケバナです。種もみを水に漬けて稲代の準備をすることからタネツケバナという名がつけました。ナズナに似た白い小さな花です。

4月に入ると水田の中に黄色の花が見られます。花が小さく径1センチ以下のものがタガラシ、少し大きくて1センチを超えるものがケキツネノボタンです。いずれも光沢のある5弁花ですが、僅かながら毒をもっているの注意して下さい。

田んぼ畦ではタンポポに似た黄色のオオジシバリが群れになって咲きます。また、ハコベに似た小さな白花—ノミノフスマも畦に咲く花です。春の田んぼに来てみてください。

可愛い花たちがあなたを迎えてくれます。(佐々木 光正)



タネツケバナ



タガラシ



ケキツネノボタン



オオジシバリ



ノミノフスマ

ビオトープの生きもの

ー ビオトープの招かれざる生きもの2種ー



コイ コイ科

日本では名前を聞いたことのない人はいないくらい馴染み深い魚である。もとは中央アジアあるいは黄河水系のいずれかが原産といわれるが、環境適応性が高く、また重要な食用として養殖、放流が盛んに行われたため今は世界中に分布している。鯉を食べる文化が定着しなかったアメリカでは在来の生物を圧迫するまでになっており、侵略的外来生物として環境問題になっている。国際自然保護連合でも「世界の外来浸入種ワースト 100」にリストアップされている。日本でも水質浄化や自然回復の名目で放流されているが、実際は在来の底生動物、水草、小魚などを食べ、水質を悪化させることが知られている。寿命は 20 年くらいと言われている。



カダヤシ グッピー科

カダヤシは米国の東部および南部原産の淡水魚で、病気を媒介する蚊を絶滅するために導入されたことが名前の由来である。20 世紀はじめに導入されて以来世界中で害魚となっている。なんでも捕食するカダヤシは、商業的に価値のある魚やその卵をたべてしまう。日本でもメダカの少なくなっている原因の一つとなっている。メダカは卵を産むがカダヤシは直接魚を生む。カダヤシは一度入り込むと除去は難しいといわれている。環境省でも外来生物による生態系、農林水産業、人の生命、身体への被害を防止するため特定外来生物法を制定しているが、カダヤシはそのリストに入っている。従って、飼育、運搬、保管、販売および野に放つことが禁止されているビオトープで唯一の生きものである。

(篠崎 将)

4~5 月のビオトープ日程

ー 詳細は決まりしだいビオトープ掲示板にー



- 4 月 (全体)： 生きもの観察会
(在来水田)： 田起こし
(不耕起)： 水路浚渫・土上げ
(植物部会)： 草刈り・清掃 (4/19 日)
- 5 月 (全体)： 春の生態系調査
(在来水田)： 代掻き・名戸小児童田植え
(不耕起水田)： 田植え・漏水工事
(植物部会)： 帰化植物の刈り取り

編集後記

桜の花が一斉に咲きほころび始め、本格的な春の田植え準備作業も始まりました。会員のみなさんの連日のご協力によって立派な木道も完成しました。訪れる市民にとってビオトープがいつそう身近な存在となることでしょう。3月8日の「ホテル池」づくり作業日には朝日新聞の朝刊記事を片手にビオトープを訪れる何人もの市民の姿がありました。実物のイチョウウキゴケを見るためです。それ故、ビオトープ掲示板にもありますが、発見の経緯を含め、佐々木さんに解説をお願いしました。(広報担当 春山)